

2022 年度 第 4 回 理事会議事録

日 時：2022 年 9 月 9 日(金) 18:15～19:15

会 場：オンライン会議

所在地：各理事施設等

出席者：宮城、高野、下口、大澤、津田、寶田、田島、荒井、中村、嘉成、空保、谷、三志奈、成定

(順不同、敬称略)

議事に先立ち、本理事会は役員の過半数の出席を認め、成立する旨確認した。

議事進行は、高野理事が担当した。

議題 I、前回議事録の確認

II、賛助会員の担当者について

III、2022 年度基礎講座について

IV、2022 年度日本医療検査科学会共催シンポジウムについて

V、私立医科大学臨床検査技師会 40 周年記念式典について

VI、その他

I、前回議事録の確認

異議なく本理事会にて承認された。

II、賛助会員の担当者について

高野理事より GE ヘルスケア・ジャパン株式会社、成定理事より極東製薬株式会社が賛助会員として入会して頂けるとの報告があった。寶田理事よりキャノンメディカル株式会社に広告掲載について案内中との報告があった。

賛助会員の入会手続きフォームからの登録ができてない企業が数社あるため、担当理事は再度確認し、該当する企業に対しては再度入力して頂くよう依頼する。

引き続き、賛助会員になって頂ける企業の勧誘を行うよう指示があった。

III、2022 年度基礎講座について

講師の馬杉英男氏(帝京大学附属病院生理機能検査室)より 1 回目の基礎講座の内容は、頸動脈エコー約 30 分、下肢静脈エコーで約 20 分、質疑応答約 10 分の予定であるとの報告があり、スライドも概ね完成しているとのことであった。

アルフレッサ株式会社と GE ヘルスケア・ジャパン株式会社に全国的にポスターの配布と宣伝をして頂くよう協力をお願いした。基礎講座の冒頭での企業のプレゼンテーションは鍋田雄一郎氏(アルフレッサ株式会社)、小池礼二郎氏(GE ヘルスケア・ジャパン株式会社)を予定している。

現在 50 名程度の参加者登録があり、登録に関する問合せなどは来ていない。ウェビナー参加者の上限が 500 名なので、この人数を越えないように 430 名程度で登録を締め切ることとした。

IV、2022 年度日本医療検査科学会共催シンポジウムについて

当日は、午前 11 時 00 分より打ち合わせを兼ねた理事会を開催するが、打ち合わせに時間を要し、理事会の時間が十分に取れない場合は、あらためて 10 月中に理事会を開催する事を確認した。

V、私立医科大学臨床検査技師会 40 周年記念式典について

40 周年記念式典は、ステーションコンファレンス東京にて開催する予定で、会場の予約は完了している。宮城会長が現地へ赴き確認したところ、40 周年記念式典の会場として申し分ないとのことであった。

学術集会は土曜日の午後より開催し、特別講演は西田直生志教授(近畿大学病院消化器内科)に依頼しており、座長は津田理事が担当する事を確認した。基礎講座の 3 回目として馬杉英男氏に前 2 回のまとめを含めた講演をお願いし、司会は高野理事が担当する事を確認した。シンポジウムの演者として東邦大学医療センター大森病院より 1 名、杏林大学医学部附属病院より 1 名選出し「術中モニタリングにおける臨床検査技師の役割」について講演を行い、司会は寶田理事が担当する事を確認した。

40 周年記念式典の特別講演は帝京大学医学部名誉教授 宮澤幸久先生をお願いし、司会は宮城会長が担当する事を確認した。

記念式典の具体的な内容は、歴代会長の挨拶、継続して会員となって頂いている賛助会員への感謝状贈呈、私立医科大学臨床検査技師会 10 年の活動記録のスライド上映などが候補として挙げられた。各内容について担当する理事を決めて役割分担する。

招待状は歴代の会長、歴代の編集長、技師長会、日臨技設立母体別会議、賛助会員などに送付する予定である事を確認した。

VI、その他

1、編集委員会からの報告

カメラデン 72 号は 2023 年 1 月上旬に発行する。印刷に関しては、新日本印刷の担当者と連絡が取れないため、他の印刷会社に見積りの作成を依頼している。記念誌合併号は 60 ページ程度で、費用は約 80 万円の見込みとなっている。

原稿の締め切りは 11 月を目途とし、記念式典の写真などは記念誌合併号の次号に掲載する。

Web カメラデンの作成を行い、トピックス記事を掲載した。Web カメラデンの掲載形式については編集委員会にて協議する。

以上

連絡事項：次回 2022 年度第 5 回理事会は 2022 年 10 月 14 日(金) 17:30 から Web にて開催予定